

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成29年3月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

診療情報の向こう側にあるもの

三枝 資枝

岡山赤十字病院

私は一般の市中病院で働く、来月で卒後10年目になる産婦人科医師です。ふとしたきっかけからご縁をいただき、私のような若輩者が診療情報管理士の講義を担当させていただくこととなりました。この巻頭言を書かせていただくのも非常に恐縮でしたが、診療情報管理士の皆様が実際に医療現場で接する医師は私のような一般の医師も多いのではないかと思います、筆をとらせていただきました。

日常業務を行っている我々にとって、診療情報の主たるものであるカルテや画像は診療の要ともいえる非常に大切なものです。ある時は診断の根拠となり、ある時は自分の思考の反映であり、またある時は自分の身を守るものであり……。それにも関わらず、日常業務に忙殺されている間は、病名をつけたりサマリーや手術録を記載したりすることは目の前の患者さんに直接行う医療行為の後回しになることがしばしばあります。これらの記情報の「向こう側」にあるものに考えが及ばないためです。

診療情報の「向こう側」にあるものとは何でしょうか。私は、自分一人では診療することができない多くの患者さん、あるいは将来の患者さんの姿だと思います。系統だった方法で病名を整理し、統計をとっていくことや記録を残していくことは、今接している患者さん以外の患者さんを間接的に救っていくことになると思います。過去の同様の疾患の患者さんのサマリーや手術記録を見返すことで、新たな発見があることもあります。しかし、記録を見返してもその記載が不十分だったり整理されていなかったりすれば、それを情報として使用することはできず新たな治療につながっていきません。そう考えると、診療情報という「紙」や「データ」を扱っておられる診療情報管理士の皆様も、実際は一人一人の生命を手にかけてくださっているのだと感じます。

チーム医療という言葉が日常的に使われるようになっていますが、一見、ただのデータにすぎないと思われる情報も実は、一つの、あるいは将来の多数の尊い生命につながっているのだということをぜひ認識いただき、皆様と一緒にチーム医療を行っていけたらと思います。

